

カワムラ コウスケ
川村 晃右 准教授

看護学部 看護学科

■ 研究業績等

【論文】

- ・「女子看護系大学生の Broad Autism Phenotype の状況とコミュニケーション・スキル、看護実践能力との関連」日本看護研究学会雑誌 45:261-269
- ・「看護学生が捉える新型コロナウイルス感染症のまん延に伴う代替実習の利点と課題に関する文献検討」和歌山県立医科大学保健看護学部紀要 18:41-48
- ・「発達障害のある看護学生に対する教育上の困難と支援に関する文献検討：メタ統合を参考にした分析による検討」京都橘大学研究紀要 (46):123-135

【発表】

- ・ Status of broad autism phenotype and its relationship to communication skills and nursing practice skills among female nursing university students (7th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science)
- ・ 発達障害のある看護学生に対する支援の充実に向けた課題：教員が捉える教育上の困難と支援との関連性に基づく検討 (日本精神保健看護学会 第30回学術集会・総会)
- ・ Literature review: Difficulties experienced by and support for nursing students with developmental disorders (23rd East Asian Forum of Nursing Scholars)

【科研費・外部資金等】

- ・ 2020/04 ~ BAP 傾向の学生にも対応した看護実践能力育成のための教育モデルの開発 若手研究

Broad Autism Phenotype 傾向の
看護学生への支援

研究の概要

自閉症スペクトラム障害は重症者から軽症者まで境界を引かず連続しており、健常者との境界に位置する者は広範な自閉症発現型 (Broad Autism Phenotype: BAP) とされます。BAP は、臨床的には問題視する必要のない個人の特性で、発達障害と診断されることもありませんが、BAP の者は他者とのコミュニケーションのとりづらさなどを感じていることが窺えます。

発達障害などで学習が著しく困難であった看護学生は 2.3%であったという報告がありますが、BAP の者は発達障害のある者よりも多いとされることから、学習が著しく困難な看護学生のなかには BAP の者が内在している可能性があります。BAP の者は発達障害の診断を受けていないため、学習が困難であっても学業不振や怠慢と判断され、教育上の配慮が受けづらい現状があります。そこで、看護学生の BAP の状況とコミュニケーション・スキルや看護実践能力との関連を明らかにし、これらの修得に向けたプログラムの開発に関する研究に取り組んでいます。

研究の詳細

研究・技術のプロセス 研究事例 研究成果 使用用途・応用例 今後の展開

看護学生における BAP の状況と、コミュニケーション・スキルや看護実践能力との関連を明らかにすることを目的として調査を行いました。その結果、BAP の得点によって正常型 (Type N)、境界型 (Type B)、BAP 傾向の高い型に区分されました。そのなかでも BAP 傾向の高い型については、打ち解けなさの低い型 (Type PR) と高い型 (Type A) に区分されました。そして、BAP 傾向が高いとコミュニケーション・スキルに影響することが分かり、さらに Type A においては、看護実践能力の修得が困難な可能性があることも示唆されました。これらのことから、学習が困難な学生に対して支援する際、教員は Type A の特性である打ち解けなさを考慮することが重要となります。

今後、BAP 傾向の高い学生のコミュニケーション・スキルの特徴である表現力や自己主張の低さ、さらに Type A の特徴である打ち解けなさに着目したプログラムを開発することを目指しています。

産学官連携先に向けた
アピールポイント

BAP の特徴を考慮することで、学習が困難な看護学生を支援する糸口になることが期待されます。一方、本研究は、看護学生と同じような対人援助職を目指す学生にも応用できる可能性があります。